

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施。

OSCE、施設見学や実習、卒業後の実務場面を想定した体験的プログラムを組んでいる。学生は受動的に「講義を聞く」「聞いてわかる・知る」ことを目的とすることなく、毎回行われる教員との対話と実践的トレーニング学習場面に積極的に参加し、行動し発言することが期待されている。

《担当者名》長谷川 聡

【概 要】

実習およびその関連科目学習に際して必要な患者・利用者・家族・職員とのコミュニケーション・スキルに関する知識と技術について、実技演習を通して基礎から学ぶ科目である。

【学習目標】

- 1)医療・福祉・保健・教育専門職に必要な「オンライン・コミュニケーション・スキル」と人間関係について理解するために、これによる対話的コミュニケーション訓練を体験する。
- 2)「コミュニケーションへの配慮」、「傾聴的態度」、「ことばの介助」を説明し実践できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	全学一斉オンライン授業化によるシラバス変更について説明する	長谷川
2	コミュニケーション学入門	コミュニケーション原理 1)コミュニケーションの第一原理を知る 2)コミュニケーションの第二原理を知る 3)対話によるコミュニケーション原理の理解確認	長谷川
3	遠隔コミュニケーションの基礎 1	画像とカメラ 1)カメラワークの基本を知る 2)ビデオ通話におけるカメラの使いかたの留意点を知る 3)ビデオ通話で画像送受信を確認する	長谷川
4	遠隔コミュニケーションの基礎 2	音声とマイク 1)音声通話実験 2)マイクの特徴を知る 3)マイクの使いかたを知る 4)音声通話演習	長谷川
5	遠隔コミュニケーションの基礎 3	マイク通話と話しかたの留意点 1)マイクの使いかた(再掲) 2)声と音声言語の特徴を知る 3)話しかた演習	長谷川
6	遠隔コミュニケーションの基礎 4	画像伝達と映りかたの留意点 1)ビデオカメラの使いかたを知る 2)ビデオ通話の身体表現を知る 3)ビデオカメラへの映りかたを体験する 4)動画伝達演習	長谷川
7	遠隔コミュニケーションの基礎 5	語りかけるスキル演習 1)看護福祉遠隔相談のためのビデオ通話の心得を知る 2)「語りかける」ためのポイントを理解する 3)ビデオ通話による「語りかけ」演習	長谷川
8	遠隔コミュニケーションの基礎 6	聴くスキル演習 1)対話場面と遠隔場面における傾聴技法の異同を知る 2)ビデオ通話による傾聴技法演習	長谷川
9	ケアリング・コミュニケーション 1	1)「オープンマインド」について知る 2)「受容と共感」について知る 3)対話演習で「オープンマインド、受容、共感」の態度と応じ方を体験する	長谷川

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
10	ケアリング・コミュニケーション2	1)「一往復半」について知る 2)「ペーシング」について知る 3)対話演習で「一往復半、ペーシング」の態度と応じ方を体験する	長谷川
11	ケアリング・コミュニケーション3	1)「会話と対話」の異同について知る 2)「コミュニケーションと役割意識」について知る 3)対話演習で「会話、対話、役割意識」を表現する態度と応じ方を体験する	長谷川
12	ケアリング・コミュニケーション4	1)ロールプレイの意味と意義、練習法を理解する 2)相談者-来談者のロールプレイを体験する	長谷川
13	ケアリング・コミュニケーション5	コミュニケーション演習1：独自の臨床的想定場面、患者・家族・住民との対話場面問題に回答し、その根拠やケアリング・コミュニケーション概念を自ら説明する。	長谷川
14	ケアリング・コミュニケーション6	コミュニケーション演習2：独自の臨床的想定場面、患者・家族・住民との対話場面問題に回答し、その根拠やケアリング・コミュニケーション概念を自ら説明する。	長谷川
15	ケアリング・コミュニケーション7	コミュニケーション演習3：独自の臨床的想定場面、患者・家族・住民との対話場面問題に回答し、その根拠やケアリング・コミュニケーション概念を自ら説明する。	長谷川

【評価方法】

実技評価30%、期末課題70%。

【備考】

教科書：指定しない。毎回、独自に開発したワークシートや説明資料他を配布する。

参考書：講義時に参考書リストを配布すると共に、推薦図書や論文について適宜解題する。

その他：積極的に学びたい学生は講義時間外に、オンラインによるコミュニケーション・スキル練習の機会をつくって構わない（要予約、シラバスのオフィスアワーを参照のこと）。

【学習の準備】

内閣府が公開しているインテーク面接に関する解説文書を以下のURLで公開している。スマホやパソコンでダウンロードして予め読んで理解しておくことが望ましい(3-4時間程度)。

http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/h19-2/html/pdf/5_2.pdf

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1,4

【実務経験】

行政職員(福祉技術職)

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関での実務経験を活かし、相談受付から初期面接を終えるまでの受入れ、ラポール形成、情報収集に至る相談過程を身につける。